

## 松くい虫被害とその対策について

### 1 令和7年度の主な対策実施状況

- ① 伐倒駆除：春駆除、秋・冬駆除
- ② 特別防除（空中散布）：6月9日、11日、12日（東松島・女川・石巻・松島）
- ③ 地上散布：6月実施
- ④ 樹幹注入：12月～
- ⑤ 植栽：12月～



地上散布



空中散布



伐倒駆除(ヘリ搬出)

### 2 特別防除に関する薬剤安全確認調査及び昆虫影響調査について

#### ① 水質調査

11地点のうち10地点で使用薬剤が検出されたが、いずれの地点においても急性影響濃度よりかなり低い値であり、魚介類への影響は無かったと判断される。

#### ② 大気調査

12地点のうち5地点で使用薬剤が検出されたが、気中濃度評価値より低い値であり、人体への影響は無かったと判断される。

#### ③ 昆虫影響調査

薬剤散布の結果、昆虫類に対して与える影響について、影響はない又は軽微なものである可能性が示唆された。



水質調査



大気調査



昆虫捕獲調査

# 散布薬剤の 残留濃度調査結果

令和7年11月  
宮城県 水産林政部 森林整備課

## 1.調査の趣旨

本調査は、令和7年6月に実施した松くい虫防除を目的とした薬剤空中散布の結果、自然環境・生活環境に与える影響を把握するために、海水及び河川水並びに大気中の薬剤残留の有無を測定、分析したものです。

## 2.安全性の確認方法

薬剤散布実施日と、その前後、一定の日時に水質・大気中に含まれる使用薬剤濃度を、ガスクロマトグラフ質量分析法により測定し、分析結果を基に、人体・魚介類等に与える影響を評価しました。

※薬剤濃度の測定・分析は、専門検査機関（同和興業株式会社）へ委託しました。

## 3.薬剤散布実施日

令和7年6月9日、6月11日、6月12日

## 4.散布薬剤

散布方法	使用薬剤名	有効成分	希釈倍率	散布薬剤量	原液量
空中散布	スミパインMC剤	MEP 23.5%	2.5	30 ツル/ha	12 ツル/ha

## 5.散布区域

散布地区	散布面積	散布量(㎥)	散布月日	摘要
東松島市(宮戸地区)	91.81ha	2,754.3	6月9日	
女川町(出島)	33.34ha	1,000.2	6月9日	
石巻市(田代島・網地島)	181.56ha	5,446.8	6月11日	
松島町(雁金、湯ノ原地区)	78.57ha	2,357.1	6月12日	

# 水質調査（魚介類等に対する影響の調査）

## 1. 調査の方法

薬剤散布実施日と前後の一定日に、散布区域周辺の水（海水、河川水）を採取し、分析機器により使用した薬剤の含有濃度を測定しました。

## 2. 調査実施日

調査は、調査地点毎に以下5つの時期に実施しました。

- ① 敷布開始以前
- ② 敷布直後
- ③ 敷布日の翌日
- ④ 敷布日の5日後又は、散布後10mm以上の降雨があった日の翌日
- ⑤ 敷布日の15日後

## 3. 調査地点

河川水		1地点
松島町(高城川)		
海水		1地点
松島町(扇谷湾)		1地点
東松島市(潜ヶ浦、里浦、嵯峨渓、波津々浦)		4地点
石巻市田代島(二鬼城崎、元和良美)		2地点
石巻市網地島(網地浜小ブチヨ、長渡浜)		2地点
女川町(出島)		1地点
		計 11地点

## 4. 調査結果

使用した薬剤の有効成分（M E P：フェニトロチオン）が検出された地点と濃度は以下のとおりでした。

※測定に使用した分析機器がMEPを検出できる最小数値（定量下限値）は、0.0001 mg/Lです。

調査地点	日 時	検出時期	MEP濃度
松島町(高城川)	6月12日 17:00	散布直前	0.0001mg/L
	6月15日 16:20	降雨10mm以上の翌日	0.0001mg/L
松島町(扇谷湾)	6月12日 16:30	散布直前	0.0005mg/L
	6月13日 6:50	散布直後	0.0002mg/L
	6月14日 15:30	散布翌日	0.0004mg/L
	6月15日 16:55	降雨10mm以上の翌日	0.0004mg/L
	6月10日 6:00	散布直後	0.0008mg/L
東松島市(潜ヶ浦)	6月11日 7:40	散布翌日	0.0010mg/L
	6月10日 6:10	散布直後	0.0012mg/L
東松島市(里浦)	6月11日 7:50	散布翌日	0.0007mg/L
	6月10日 5:45	散布直後	0.0003mg/L
東松島市(嵯峨渓)	6月11日 7:25	散布翌日	0.0010mg/L
	6月10日 6:25	散布直後	0.0004mg/L
東松島市(波津々浦)	6月11日 8:00	散布翌日	0.0003mg/L
	6月10日 13:30	散布前	0.0002mg/L
石巻市(二鬼城崎)	6月12日 7:05	散布直後	0.0005mg/L
	6月10日 13:45	散布前	0.0003mg/L
石巻市(元和良美)	6月12日 7:50	散布直後	0.0003mg/L
	6月13日 8:35	散布翌日	0.0002mg/L
石巻市(網地浜小ブヨ)	6月10日 10:45	散布前	0.0002mg/L
	6月12日 8:55	散布直後	0.0002mg/L
	6月13日 9:00	散布翌日	0.0001mg/L
石巻市(長渡)	6月10日 10:20	散布前	0.0001mg/L
	6月12日 8:45	散布直後	0.0003mg/L

## 5. 評価の方法

### ●魚介類に対する影響

MEPが魚介類に及ぼす影響は、TLm値から急性影響濃度(AEC)を求め、調査結果と比較し、評価します。

#### (1) TLm値

- ・薬剤会社が農薬登録(農林水産省消費・安全局で登録)する際に試験し公表している毒性データの一種。
- ・ある生物を、農薬製剤、原体を水に溶解、または、懸濁させた水槽の中で48時間飼育し、その半数が死亡する濃度をいう。

※MEPのTLm値は、以下のとおり。

参考文献

コイ	4.4	～	8.2	ppm(mg/L)	※1 環境と農薬54(1982)
アサリ	1.3	～	1.6	ppm(mg/L)	※2 環境と農薬55(1982)
カキ			0.45	ppm(mg/L)	※3 防虫科学36 189(1971)

#### (2) 急性影響濃度(AEC)

- ・魚介類が短期間に多量の農薬を摂取した場合、影響がある薬剤濃度。
- ・一般的に環境省の基準として公表されているものは、TLmに0.1を乗じた値を目安としています。

$$\text{急性影響濃度(AEC)} = \text{TLm値} \times 0.1$$

※上記の式から、MEPの急性影響濃度は以下のとおりとなります。

コイ	0.44	～	0.82	ppm(mg/L)
アサリ	0.13	～	0.16	ppm(mg/L)
カキ			0.045	ppm(mg/L)

### (3) 急性影響濃度と測定値との比較

水質調査の結果、検出されたMEPは  $0.0001\text{mg/L} \sim 0.0012\text{mg/L}$  であり、急性影響濃度に満たない値でした。

## 6. 水質調査の結果による安全性の評価

調査、分析の結果、11地点のうち10地点で微量の使用薬剤(MEP)が検出されましたが、いずれの濃度も急性影響濃度よりかなり低い値であったことから、薬剤散布による魚介類に対する影響は無かつたと判断されます。

色相・臭気・濁りに対する調査についても、正常な結果が得られました。

# 大気調査(人体等への影響の調査)

## 1. 調査の方法

薬剤散布が行われた前後の一定時間に、散布区域周辺の大気(空気)を採取し、分析機器により使用した薬剤の含有濃度を測定しました。

## 2. 調査実施日

調査は、調査地点毎に以下3つの時間帯に実施しました。

- ① 敷布前日
- ② 敷布中
- ③ 敷布終了の6時間後

## 3. 調査地点

東松島市(里浦、潜ヶ浦、室浜)	3地点
女川町(出島、合ノ浜)	2地点
石巻市田代島(田代浜字内山)	1地点
石巻市網地島(網地浜網地、長渡浜杉、長渡浜長渡)	3地点
松島町(湯の原、町内、石浜)	3地点
	計 12地点

## 4. 調査結果

使用した薬剤の有効成分 (MEP : フェニトロチオン) が検出された地点と濃度は以下のとおりでした。

※ 測定に使用した分析機器がMEPを検出できる最小数値(定量下限値)は、 $0.1 \mu\text{g}/\text{m}^3$ です。

調査地点	日 時	検出時期	MEP濃度
東松島市(鳴瀬字里浦)	—	—	$0.1 \mu\text{g}/\text{m}^3$ 未満
東松島市(鳴瀬字潜ヶ浦)	—	—	$0.1 \mu\text{g}/\text{m}^3$ 未満
東松島市(鳴瀬字室浜)	—	散布6時間後	$0.3 \mu\text{g}/\text{m}^3$
女川町(出島字出島)	—	散布中	$7.6 \mu\text{g}/\text{m}^3$
女川町(出島字合ノ浜)	—	散布中	$7.2 \mu\text{g}/\text{m}^3$
石巻市(田代浜字内山)	—	散布前	$1.8 \mu\text{g}/\text{m}^3$
石巻市(田代浜字内山)	—	散布6時間後	$0.6 \mu\text{g}/\text{m}^3$
石巻市(網地島)	—	—	$0.1 \mu\text{g}/\text{m}^3$ 未満
石巻市(長渡浜杉)	—	—	$0.1 \mu\text{g}/\text{m}^3$ 未満
石巻市(長渡浜長渡)	—	—	$0.1 \mu\text{g}/\text{m}^3$ 未満
松島町(湯の原)	—	散布中	$0.1 \mu\text{g}/\text{m}^3$
松島町(町内)	—	—	$0.1 \mu\text{g}/\text{m}^3$ 未満
松島町(石浜)	—	—	$0.1 \mu\text{g}/\text{m}^3$ 未満

## 5. 評価の方法

### ● 人体への影響

MEPが散布地周辺住民の健康に及ぼす影響は、気中濃度評価値と調査結果を比較し、評価しました。

#### (1) 気中濃度評価値

・環境省が、航空防除による散布地周辺住民の健康への影響を評価する目安として、毒性試験成績等を基に適切な安全幅を見込んで設定している数値。(平成9年12月環境庁水質保全局)

この中で、MEPの気中濃度評価値は $10 \mu\text{g}/\text{m}^3$ に設定されています。

※安全と危険との明らかな境界を示すものではなく、航空防除で使用する農薬の気中濃度が短時間わずかにこの値を超えることがあっても、直ちに人の健康に影響があるものではない数値です。

(2) 気中濃度評価値と測定値の比較

大気調査の結果、検出されたMEPは $0.1 \mu\text{g}/\text{m}^3$ ～ $7.6 \mu\text{g}/\text{m}^3$ であり、気中濃度評価値に満たない値でした。

**6. 大気調査の結果による安全性の評価**

調査、分析の結果、12地点のうち5地点について、散布中の計測時に微量のMEPが検出されましたが、気中濃度評価値よりかなり低い値であったことから、人体への影響は無かったと判断されます。

# 散布薬剤の 昆虫影響調査結果

令和7年11月  
宮城県 水産林政部 森林整備課

## 1.調査の趣旨

本調査は、令和7年6月に実施した松くい虫防除を目的とした薬剤空中散布の結果、自然環境に与える影響を把握するために、昆虫類（指標昆虫としてカミキリムシ科、オサムシ科及びハチ目）の薬剤残留の有無を測定、分析したものです。

## 2.安全性の確認方法

薬剤散布の実施前後に、各種トラップ（カミキリトラップ、イエローパントラップ、地上ピットホールトラップ、斃死昆虫調査）による昆虫の捕獲調査を行い、得られた結果を基に昆虫類への影響を評価しました。

※捕獲調査の実施は、専門機関（株式会社宮城環境保全研究所）へ委託しました。

## 3.薬剤散布実施日

令和7年6月9日、6月11日、6月12日

## 4.散布薬剤

散布方法	使用薬剤名	有効成分	希釈倍率	散布薬剤量	原液量
空中散布	スミパインMC剤	MEP 23.5%	2.5	30 リットル/ha	12 リットル/ha

## 5.散布区域

散布地区	散布面積	散布量(リットル)	散布月日	摘要
東松島市(宮戸地区)	91.81ha	2,754.3	6月9日	
女川町(出島)	33.34ha	1,000.2	6月9日	
石巻市(田代島・網地島)	181.56ha	5,446.8	6月11日	
松島町(雁金、湯ノ原地区)	78.57ha	2,357.1	6月12日	

# カミキリトラップ（指標昆虫：カミキリムシ科）

## 1. 調査の方法

薬剤散布前後の一定期間、調査地点毎に、黒及び白のカミキリトラップを地上高1.5mの位置に、30m間隔で直線上に3セットを設置し、捕獲したカミキリムシ科に属する昆虫の種類別個体数（種レベルで同定）を調査しました。

## 2. 調査実施日

調査は、調査地点毎に以下4つの時期に実施しました。

- ① 敷布8日前から散布前日
- ② 敷布翌日から散布8日後
- ③ 敷布21日後から散布28日後
- ④ 敷布49日後から散布56日後

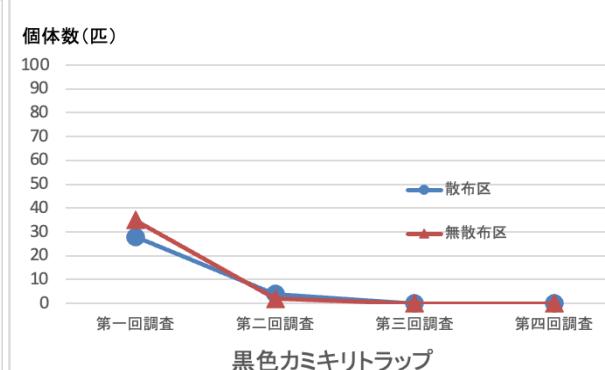
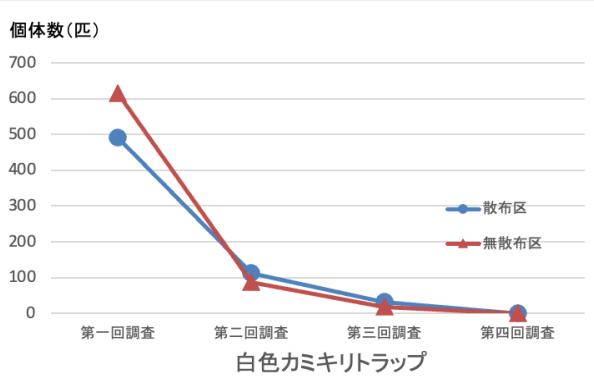
## 3. 調査地点

薬剤散布区		1地点
東松島市(桜木山)		
薬剤無散布区		1地点
東松島市(桜木山)		
計		2 地点

## 4. 調査結果

今回の調査で捕獲されたカミキリ科昆虫は以下のとおりです。

目名	科名	種名	捕獲個体数												合計個体数					
			第一回調査			第二回調査			第三回調査			第四回調査								
			散布		無散布															
			白色	黒色	計															
コウチュウ目	カミキリムシ科	ツヤケシハナカミキリ	3	0	3	5	0	5	0	0	0	0	0	0	0	0	0	5		
		エグリトラカミキリ	0	0	0	0	0	0	1	0	1	0	0	0	0	0	0	0		
		トビヒゲトラカミキリ	488	28	516	610	35	645	110	4	114	84	2	86	25	0	5	736		
		ヨツスジハナカミキリ	0	0	0	0	0	0	0	3	0	3	7	0	7	13	0	16		
		チャボヒゲナガカミキリ	0	0	0	0	0	0	1	0	1	0	0	0	0	0	0	0		
1目	1科	5種	491	28	519	615	35	650	112	4	116	87	2	89	32	0	18	757		



## 5. 評価

白色トラップでの調査では、薬剤散布直後(第二回調査)で、散布区の捕獲数が減少しました。このことから、薬剤の影響が示唆されますが、無散布区でも薬剤の影響を受けていないにも関わらず第二回調査では同じように捕獲数が減少しました。なお、第一回調査で散布区の捕獲数が多かったのは、トビヒゲトラカミキリの発生時期と重なったためと考えられます。

黒色トラップにおいては捕獲数が非常に少なく、傾向を確認できる結果とはなりませんでした。

以上のことから、令和7年度の調査においては、散布区における個体数の減少は薬剤散布の影響よりも昆虫の発生時期による個体数の増減、捕獲圧が影響している可能性が示唆されました。

# イエローパントラップ（指標昆虫：ハチ目）

## 1. 調査の方法

薬剤散布前後の一定期間、調査地点毎に、直径12cm、深さ4.5cmの黄色プラスチック製の皿を地面に、3m間隔で20個設置し、捕獲したハチ目に属する昆虫の種類別個体数（種レベルで同定）を調査しました。

## 2. 調査実施日

調査は、調査地点毎に以下4つの時期に実施しました。

- ① 散布2日前から散布前日
- ② 散布翌日から散布2日後
- ③ 散布27日後から散布28日後
- ④ 散布55日後から散布56日後

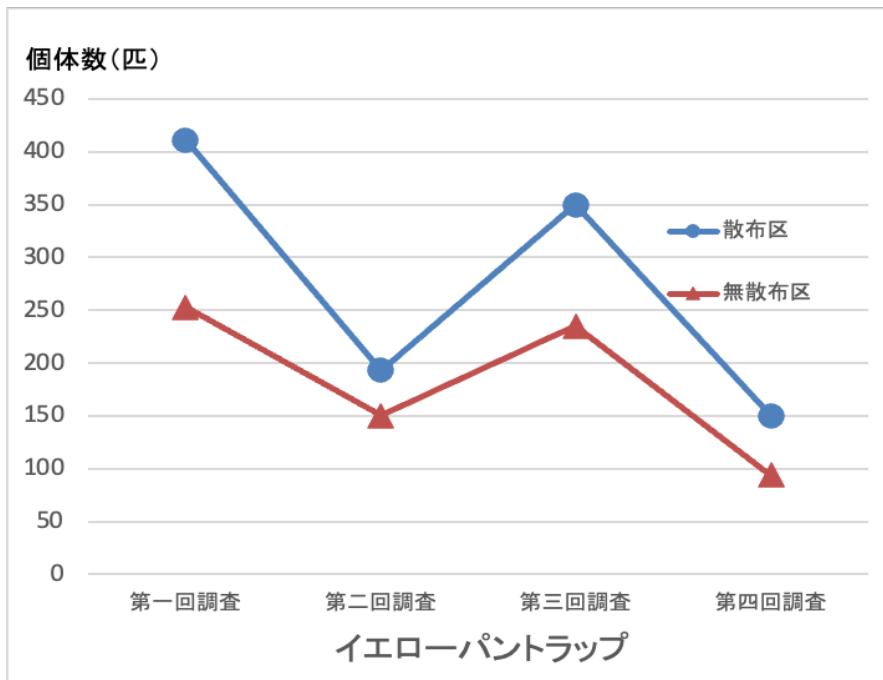
## 3. 調査地点

薬剤散布区	東松島市(桜木山)	1地点
薬剤無散布区	東松島市(桜木山)	1地点
		計 2 地点

## 4. 調査結果

今回の調査で捕獲されたハチ目昆虫は以下のとおりです。

目名	科名	捕獲個体数								合計個体数	
		第一回調査		第二回調査		第三回調査		第四回調査			
		散布	無散布								
ヒゲナガクロバチ科		45	26	26	16	30	34	5	4	106	80
オオモンクロバチ科		1	13	1	1	0	4	0	1	2	19
ヒメバチ科		50	19	19	14	34	32	3	3	106	68
コマユバチ科		26	4	15	3	65	23	3	1	109	31
ハエヤドリクロバチ科		206	70	98	52	161	62	20	18	485	202
タマゴクロバチ科		12	6	3	20	5	8	5	1	25	35
タマバチ科		0	2	0	2	0	0	0	0	0	4
ツチヤドリタマバチ科		0	0	0	0	2	1	0	0	2	1
カタビロコバチ科		0	0	0	2	0	0	0	0	0	2
コガネコバチ科		0	0	1	1	0	6	0	0	1	7
トビコバチ科		1	1	6	0	0	0	0	0	7	1
ツヤコバチ科		0	4	0	0	0	3	0	1	0	8
ヒメコバチ科		1	1	2	2	2	3	1	3	6	9
ホソハネコバチ科		0	0	0	0	2	0	0	0	2	0
アリガタバチ科		0	0	0	0	0	2	4	1	4	3
カマバチ科		0	0	0	1	0	0	0	0	0	1
クモバチ科		3	7	6	4	8	25	10	13	27	49
コツチバチ科		3	0	0	0	0	0	0	0	3	0
アリ科		63	100	16	32	39	32	99	47	217	211
ギングチバチ科		0	0	0	0	1	0	0	1	1	1
コハナバチ科		0	0	0	0	1	0	0	0	1	0
1目	21科	411	253	193	150	350	235	150	94	1104	732



## 5. 評価

散布区及び無散布区において薬剤散布直後の第二回に捕獲数が減少し、第三回に増加、第四回で再び減少と同様の傾向となりました。

散布区の方が個体数が多かったものの、散布区と無散布区で類似する傾向にあり、両区での個体数、種数の変動に大きな差がなかったことや薬剤散布後の調査で個体数の増加が確認できることから、薬剤散布のハチ目への影響はごく軽微なものであると示唆されました。

# 地上ピットホールトラップ（指標昆虫：オサムシ科）

## 1. 調査の方法

薬剤散布前後の一定期間、調査地点毎に、ビニールカップを上端が地表面と水平になるように埋設したトラップ5個を十字型に設置したもの1セットとし、10m間隔で3セット設置し、捕獲したオサムシ科に属する昆虫の種類別個体数（種レベルで同定）を調査しました。

## 2. 調査実施日

- ① 散布8日前から散布前日
- ② 散布翌日から散布8日後
- ③ 散布21日後から散布28日後
- ④ 散布49日後から散布56日後

## 3. 調査地点

薬剤散布区  
東松島市(桜木山) 1地点

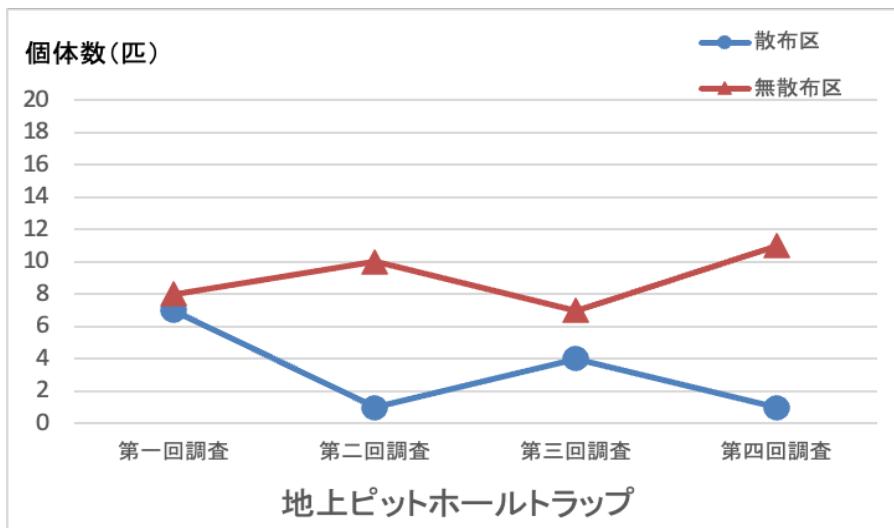
薬剤無散布区  
東松島市(桜木山) 1地点

計 2 地点

## 4. 調査結果

今回の調査で捕獲されたオサムシ科の昆虫は以下のとおりです。

目名	科名	種名	捕獲個体数								合計個体数	
			第一回調査		第二回調査		第三回調査		第四回調査			
			散布	無散布								
コウチュウ目	オサムシ科	マルガタゴミムシ	0	0	0	0	0	1	0	0	0	1
		ヒメゴミムシ	0	0	0	0	0	0	0	1	0	1
		コクロナガオサムシ東北地方南部並種	0	0	0	2	1	3	0	0	1	5
		アオオサムシ東北地方並種	0	1	0	1	0	1	1	0	1	3
		オオアトボシアオゴミムシ	0	0	0	0	0	0	0	3	0	3
		アトボシアオゴミムシ	1	1	0	1	0	0	0	2	1	4
		ニコウヒメナガゴミムシ	0	1	0	3	0	1	0	0	0	5
		ヨリトモナガゴミムシ	0	1	0	1	0	0	0	1	0	3
		クロツヤヒラタゴミムシ	5	4	1	0	3	1	0	3	9	8
		Synuchus属の一種	0	0	0	0	0	0	0	1	0	1
ハンミョウ科		ニワハンミョウ	1	0	0	2	0	0	0	0	1	2
		1目	2科	11種	7	8	1	10	4	7	11	36



## 5. 評価

散布区の捕獲数は第二回に減少、第三回は増加し、第四回に再び減少しました。無散布区の捕獲数では第二回目に増加、第三回は減少、第四回は増加となりました。散布区では、散布直後は個体数が減少したものの第三回では増加に転じていることや散布区、無散布区ともに捕獲数が少ない上に、調査回ごとに個体数及び種数の大きな変動がみられないことから、薬剤散布の影響はない、またはごく軽微なものと示唆されました。

# 斃死昆虫調査

## 1. 調査の方法

薬剤散布翌日、調査地点毎に、白布袋（ $\phi 1.14m$ 、深さ1.5m）5枚を調査区域に均一になるように配置し、斃死落下した昆虫類の種類別個体数（目レベルで同定）を調査しました。

## 2. 調査実施日

調査は、調査地点毎に以下の時期に実施しました。

① 散布翌日

## 3. 調査地点

薬剤散布区	1地点
東松島市(桜木山)	
薬剤無散布区	1地点
東松島市(桜木山)	
計	2 地点

## 4. 調査結果

今回の調査で捕獲された昆虫は以下のとおりです。

目名	捕獲個体数		合計個体数
	散布	無散布	
カジリムシ目	0	1	1
カメムシ目	2	1	3
ハエ目	11	21	32
ハチ目	4	3	7
4目	17	26	43

## 5. 評価

散布区、無散布区ともに4目43個体を採取しました。

調査結果については、調査する年度によって、気象条件の影響等により個体数が変化することがあります。

両区ともに採取数に違いが見受けられないため、薬剤散布の影響を断定することはできませんでした。

## 総 括

本調査では、カミキリトラップ、イエローパントラップ、地上ピットホールトラップのいずれにおいても、薬剤散布区・無散布区とともに調査回ごとに個体数の増減が見られましたが、両区間で大きな差は認められませんでした。特に、カミキリトラップでは薬剤散布直後に個体数の減少が見られたものの、これは昆虫の発生時期や捕獲圧など薬剤以外の要因による影響が大きいと考えられます。イエローパントラップおよび地上ピットホールトラップでも、個体数や種数の変動は薬剤散布の有無にかかわらず同様の傾向を示し、薬剤散布による影響はごく軽微、または認められないと示唆されました。

## 海岸防災林防除事業の概要について

### 1 概要

東日本大震災以前、県沿岸部の海岸防災林では、松くい虫被害を防止するため、無人ヘリコプターによる薬剤散布を実施していた。

しかし、震災によって海岸防災林は大きな被害を受け、その後の復旧が進む中でマツの樹高が3メートルを超える箇所も増え、全体として成林化が進んできている。

一方で、一部地域において松くい虫被害が確認され、このまま放置すると被害が拡大するおそれがある状況となっている。

こうした状況を受けて、令和6年度には無人ヘリによる薬剤散布の安全性を確認する実証試験を行った。試験では県内5か所において、薬剤散布による大気、水質および昆虫への影響を調査し、安全性が確認されている。

この結果を踏まえ、令和7年度から震災後15年ぶりに薬剤散布を再開することとなった。

今後は、特に被害拡大の恐れがある地域を中心に計画的な薬剤散布を進めることで、海岸防災林の健全な成長を促し、防災機能の維持・強化に努めていく。

### 2 事業箇所及び面積

亘理町吉田地内の県有海岸防災林 A = 28.82 ha

### 3 実施年月日

令和7年6月19日（木）

### 4 散布薬剤

スミパインMC 5.0倍液（有機リン系の農薬）



### 5 委託先

ヤンマー・ヘリ＆アグリ株式会社東北営業所（岩手県奥州市）

### 6 令和8年度事業予定

- (1) 亘理町 78.3 ha (町有分49.48 ha含む)
- (2) 岩沼市 23.0 ha
- (3) 東松島市 15.0 ha

計 116.3 ha



散布状況（亘理町）